

<p>学校教育目標</p>	<p>よりよく生きる ～ 自律 ・ 貢献 ・ 感謝 ～ ○主体性○コミュニケーション力○科学的思考力○郷土愛・郷土への貢献</p>	<p>経営理念</p>	<p><ミッション> 温かなつながりと感動とともに、豊栄の地に質の高い教育を提供する <ビジョン> ○夢や志の実現に向かって、努力し続ける忍耐力と行動力をもつ生徒 ○自身の学びを振り返り、他者の考えを取り入れ、学びを深めることができる生徒 ○自他の生命を尊重し合い、いじめや偏見・差別を許さない生徒 ○ふるさと「豊栄」を大切に、地域に貢献しようとする生徒</p>
---------------	--	-------------	---

評価計画						自己評価					学校関係者評価		改善方針	
項目	重点	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目	目標値	達成値		達成度	評価	結果と課題の分析	評価	コメント	改善方針
							7月	1月						
確かな学力	1	○主体的・対話的で深い学びの充実	○自己表現力の育成	○学びの質を高めるための「表現すること」に視点を置いた授業改善	①他者の意見を参考にして自分の考えを再構築している生徒の割合：70%以上【生徒アンケート「私は、授業等、他者の意見を参考にして、自分の考えをより良いものにしていくことができる。』」	70%	86.1	82.2	117	4	生徒アンケートの肯定的評価は①85.7②86.6③75.0全体82.2%であった。○第3学年は受験を目前に控え、多くの教科で話し合いを取り入れた授業は減少していることが考えられる。	A9	①授業で他者の意見を参考にする場合が見られた。自分の考えに深みがでていた。 ④授業の復習とともに、授業ごとの振り返りが大切ではないかと考える。それを相互参照できる授業を小学校から目指している。 ・ミライシードがどのような場面で、どのように活用されているのかを整理して、今後の活用で反映させる必要がある。 ⑤スマホを持つ生徒が増え、YouTube等の視聴時間の長さが学力の定着や読書量、生活リズムに影響しているのではないかと懸念される。 ・約3割が未達のため生活態度の指導が必要と思われる。 ・生活習慣の定着は家庭の協力も必要となるため、家庭への啓発と生徒の意識向上に努める必要がある。 ⑦1年生教室に友だちのよい点がたくさん掲示してある。大人になってからも人から認められるのは嬉しい。改めて自分について気付きがあるかもしれない。 ・主体的に活動している際には、人と人とが関わり合う学びも大きいと思う。共感、達成感を味わえるよい経験を積み重ねることが大切である。 ⑩小学校時に不登校だった生徒が、先日のブックトークで小学生に語りかける言葉の優しさや同級生との会話の様子を見て、本来の自分らしさで、中学校生活を楽しんでいることを感じることができ大変感動した。 ⑫不登校生徒の家庭訪問を継続されていて素晴らしいと思う。少しでも学校に足が向いたりオンラインで授業ができたらしらばよいと思う。 ⑮3年間かけて地域探究を積み重ねることによって過疎地域の厳しい現実が見えてきているのかも知れない。 ・効率化の行政支援が必要であると思う。 ・地域への愛着を育みながら地域の課題に対してどう行動できるかまで、深く考えている所が素晴らしいと思う。 ⑯多くの生徒がためになるなどと思ってきておられたのしい。 ・こども園、小、高との連携は将来の自分を考えるうえでも大変有意義だと思う。豊栄ならではのこのつながりをこれからも伝統にしていってほしい。 ⑰働き方改革については業務の精選が求められている。 ⑱教職員の働きやすい職場となるよう配慮された職場環境づくりができていと思う。	
			○基礎的・基本的な学習内容の定着	○各種テスト等の計画的な実施 ○ミライシード等の活用	②各種学力調査(実力テスト)において、総得点 30%以下の生徒の割合：20%以下	20%	19.0	23.3	86	2	★第2回の実力テストでは、①1/11②0/14③7/17(特支学級を除く)であり、全学年の割合は8/42で19%であった。第3回の実力テストでは、①2/11②0/14③8/18(特支学級を除く)であり、全学年の割合は10/43で23%であった。	A4 B3 C2		
			○生徒の主体的な学習を促す授業改善の推進	○月1回以上の授業観察 ○ICTを効果的に活用する授業づくり	③授業公開：全教員が年度1回以上	100%	—	100	100	4	対象教員9名のうち全員が研究授業を実施した。表現力の育成を主眼に置いた授業の改善に取り組むことができた。	A8 B1		
豊かな心・健やかな体	2	○基本的生活習慣の定着	○生活リズムの確立	○起床時刻、就寝時刻の固定	⑤起床時刻、就寝時刻をほぼ固定している生徒の割合：90%以上【生徒アンケート「普段の生活で、起床時刻、就寝時刻をほぼ固定している。』」	90%	67.5	71.1	79	2	生徒アンケートの肯定的評価は①57.1②80.0③75.0全体71.1%であった。保護者の肯定的評価は84.2%であった。○1年生は普段と長期休暇で起床・就寝時刻が変わると答えたのは60%を超えており、この数値が結果に反映したのではないかと考えられる。	A5 B1 C3	②学力の定着を図るためには日々の課題への取組が重要である。毎日の自学ノートや各教科の課題を出せるよう声掛けをしていく。また、毎日の自学ノートでは好事例を紹介して内容を深める工夫をする。 ④タブレットを使用した授業をさらに増やしていくよう計画的に取り組んでいく。 ⑤生活リズムの見直しについて、保健だよりや、長期休業前の話を通して、生徒の意識の向上を図る。 ⑦生徒会執行部やリーダーが中心となり行事に取り組む場面を多く設定することで、生徒自身が積極的に行事に参加し活動しやすくなるように工夫する。 ★⑩第2・3学年で不満足と非承認の合計人数は改善された。QUを活用することで、ターゲットが明確になり、集学的に対応することが容易になった。全体と個人の両面でのアプローチを継続していく。 ⑮地域行事への参加では、学校としてセントラルマルシェ、ヘソ祭り、板鍋登山マラソン(陸上部)、町内駅伝(第1・2学年)を行っている。また、総合的な学習の時間には豊栄調べや、エヒメアヤマの里・地域サロン・社会福祉協議会デイ・サービス訪問等を実施している。 ・CS応援事業の取組の一環として、CS推進員による「CSだより」で町内地域の行事の紹介を行っている。 ・第3学年では、サロン訪問や卒業レポートを通して、地域の課題に注意が向きがちであるが、生徒一人一人がどうすれば地域活性化につながる取組ができるか考えをまとめている。 ⑰継続して部活動の完全下校17:00を徹底していく。 ⑱継続して年休の取得を呼び掛ける。また、年休の取得が容易になるように長期休業中は、会議は初めか終わりの1日にまとめて行っている。	
			○食習慣の確立	○毎日、朝食を摂っている生徒の割合：90%以上	⑥毎日、朝食を摂っている生徒の割合：90%以上	90%	93.0	93.3	104	4	生徒アンケート「毎日、朝食をとっている」の肯定的評価が①92.9②93.3③93.8全体93.3%であった。保護者の肯定的評価は92.1%であった。	A9		
		○自己指導力の育成を目指した生徒指導の充実	○規律の徹底と規範意識の醸成	○納得と評価による生徒指導の機能的な実施	⑦生徒の自己肯定感の割合：80%以上 ⑧場に応じた適切なマナーが身に付いている生徒の割合：70%以上	80%	69.8	75.5	94	3	生徒アンケートの肯定的評価が①71.4②86.7③69.6全体75.5%であった。○自分の良いところを95%の生徒が具体的に挙げることができた。3年生の回答には空欄のほか「すべて、背が高い、ゲーム好き、友達がいる、静か」という回答が見られた。	A6 B3		
		○自己肯定感と自己有用感を高める教育活動の推進	○主体性を尊重した生徒会活動の推進	⑨生徒主体の行事等を楽しみにしている生徒の割合：70%以上【生徒アンケート「体育大会や文化祭、トレーニング集会、歌声集会、クラスマッチ、グリーンウォークといった生徒主体の行事に主体的に参加している。』」	70%	83.7	77.8	111	4	生徒アンケートの肯定的評価が①71.4②80.0③81.3全体77.8%であった。	A9			
		○不登校、問題行動、いじめ問題の克服	○不登校、問題行動等の発生件数の減少	○Hyper QUの結果を活用した集団支援	⑩学級満足度尺度の不満足群及び非承認群の割合：15%以下 ⑪SC・心のサポートと連携した生徒相談：年3回以上	15%	39.1	31.9	47	2	★第2回では、第1学年：不満足4/非承認0(前回2/2)、第2学年：不満足4/非承認0(6/1)、第3学年：不満足6/非承認1(6/1)、全体での割合は不満足と非承認を合わせて15人(18)で、全体に占める割合は31.9%(39.1)であった。○不満足と非承認の合計人数は改善された。	A3 B4 C2		
		○不登校生徒の社会的自立に向けた支援	○不登校生徒の自立に向けた取組の充実	⑫不登校生徒並びに家庭連携：週1回以上【教職員アンケート「週1回以上、不登校生徒や家庭と連携している。』」	100%	※58.3	100	100	4	不登校生徒は第1学年1人、第3学年1人である。第2学年生徒は12月に転校した。他の2名に対して学年部で週1回の家庭訪問を実施している。第1学年の保護者に対して、心のサポーターが週1回、面談や家庭訪問を行い連携している。○質問の趣旨を「学年で週1回以上不登校生徒について学年で話し合い情報を共有している」とした。	A9			
信頼される学校	3	○地域の活性化に貢献できる学校づくりの推進	○地域に感謝し、貢献しようとする生徒の育成	⑮地域に愛着を感じている生徒の割合：85%以上【生徒アンケート「今、住んでいる地域が好きである。』」	85%	86.1	77.8	92	3	生徒アンケートの肯定的評価が①85.7②93.3③56.3全体77.8%であった。○3年生は入試を控え現実をふまえたことが結果に反映したと考えられる。好きではない点の回答として「店や病院が少ない、交通が不便、過疎、田舎、遊びに行くところがない、どこに行くにも遠い」が見られた。	A5 B4			
			○小中・中高の連携教育の充実	○異校種との積極的な交流や連携	⑯小学校や高等学校との交流は、ためになると考える生徒の割合：70%以上【生徒アンケート「小学校との交流や高校との交流は、自分の中学校生活を充実させるものとなっている。』」	70%	76.8	80.0	114	4	生徒アンケートの肯定的評価が①78.6②93.3③68.8全体80.0%であった。質問を「自分に役に立つ」から「中学校生活を充実させるもの」に変更することで、生徒は質問の意味を理解し答えやすくなったと考えられる。	A9		
		○働き方改革の推進	○働きやすい職場づくりの推進	○学校組織の適正化と分掌等役割配分の適正化	⑰県費負担教職員の勤務時間外在校等時間の月平均：45時間以下 ⑱県費負担教職員の年度内の年次有給休暇取得日数：12日以上	85%	80.8	※96.9	※114	※4	※45時間を超える教職員の数は8月～12月現在(5か月間)で延べ2名であり、1か月あたり0.4人となる。45時間以下の教員の割合は96.9%であった。 ※12月末現在までの年休取得人数は、12日以上5、10～12日未満2、5～10日未満6、3～5日未満0、未取得者0である。目標達成者5名であり、全体の38.5%であった。	A9 A6 B1 C2		

■自己評価 4:目標を上回って達成 3:目標どおりに達成 2:目標をやや下回って達成 1:目標をかなり下

■学校関係者評価 A...とても適切である B...概ね適切である C...あまり適切でない D...全く適切でない (N...判定で